

第5回学校建設
準備委員会 概要報告

義務教育学校を視察してきました！

5月20日、委員13名と事務局とで、東京都八王子市にある「市立いずみの森義務教育学校」へ視察に行ってきました。この学校は、令和2年度に開校した八王子市及び多摩地区初の義務教育学校で、この4月現在、児童生徒数1,342名、教職員数126名（通常学級39学級、特別支援学級9学級）という、たいへん大きな学校でしたが、学校運営の仕組みや施設の工夫など、真鶴町が新しい学校を創る上で参考となるお話を、たくさん伺うことができました。「上級生には思いやりの気持ちが育ち、下級生にはあこがれの気持ちが育ち、共生社会の担い手として、子どもたちが立派に成長できる学校です。」という校長先生の言葉に、小中一貫教育の意義を改めて感じることができました。

参加された委員さんの感想です(抜粋)

施設関係

- 真鶴ではもっと木材を使用して、温もりを感じる内装が良い。
- 黒板のプロジェクターはぜひ導入してほしい。
- 明るく、廊下が広い印象。階段の色が違いうなど使い勝手がよい配慮も大切です。
- 「物入れ」の場所・数・大きさは大事だと思いました。
- 特別教室の見える化は、メリット・デメリットがあると思います。
- 運動場に芝生の部分があり、小学生と中学生の利用のすみわけが分かりやすくて良いと思う。
- ジェンダーレストイレの配置について検討したい。
- 先生方にアイデアを聞きたい。

カリキュラム関係

- 時程（前期課程と後期課程）のズレが最小限にできていた。
- 今回の視察を通し、6・3制に縛られる必要がなく、柔軟なカリキュラムが組める義務教育学校が当町には合うのではないかと。



多目的スペースになる広い廊下

- 専門性のある教諭が教えることで、意欲的に学ぶ学校になる。
- 新しい学校では、縦割り活動を積極的に行ってほしい。

子どもの様子・その他

- 子どもの数の割に教室が広く使っているイメージがあった。開放感のある空間は学びやすさにつながると感じた。
- 3年生と7年生など、学年を越えて協働できることは、学習面での成長はもとより、精神面の成長にもとても良いと思った。
- 義務教育学校が良いのでは。校長が1人でありリーダーシップを取ることがはきりするから。

今後に向けて

- 校舎の建設場所が決まり次第、周辺住民への説明に加え、要望を伺う機会をなるべく早く設定する必要がある。

いずみの森義務教育学校の概要

- ・校長1人、副校長4人を核に学校を運営
- ・学年の区分は「4-3-2」が基本
- ・入学式は第1学年、卒業式は第9学年
- ・第6学年で「感謝とエールの会」、第4学年と第7学年で「修了の会」を実施
- ・標準服は第7年生から着用
- ・第5学年から50分授業、教科担任制
- ・1・3・5校時は全学年同時にスタート
- ・九九検定など異学年交流が活発
- ・受け入れ可能な部活動には第5学年から参加（公式戦などは第7学年から）
- ・給食後、全児童生徒が縦割りで清掃活動
- ・教室と廊下との間仕切りは開放が可能（第7学年以上は集中するため固定の壁）
- ・屋上に水深の調整が可能なプールを設置
- ・個に応じた「リソースルーム」を設置
- ・教職員のための「ほっとルーム」を設置
- ・学童や地域コミュニティスペースを複合
- ・学校運営協議会と地域協働本部が盛ん



ぬくもりを感じる木製ベンチの憩いの場



高さの違う手洗い場



食育にもつながるガラス張りの給食室

..... 今年度の準備委員の皆さんです。よろしくお願いします！（敬称略）

- ◇小林 宏己（学識経験者：学校教育）
- ◇竹原 和泉（学識経験者：社会教育）
- ◇藤井 明香（公募）
- ◇玉田 麻里（公募）
- ◇山口 稚奈（保護者：幼稚園PTA）
- ◇露 英一（保護者：小中学校PTA）
- ◇朝倉 隆（関係団体：自治会連合会・人権擁護委員会）
- ◇古川 昌子（関係団体：民生児童委員協議会）
- ◇伊藤 晴美（関係団体：まなづる小学校運営協議会）
- ◇倉澤 良一（校長会：ひなづる幼稚園）
- ◇露木 寛子（校長会：まなづる小学校）

- ◇市川 麻美（校長会：真鶴中学校）
- ◎瀧本 朝光（教育委員）
- ◇大塚 伸二（副町長）
- ◇瀬瀬 仁志（教育長） ◎＝委員長

今年度から、学識経験者として小林宏己さん（早稲田大学名誉教授）に、小中学校PTA代表として露英一さんに、新たに加わっていただきました。よろしくお願いいたします。なお、昨年度お世話になった長澤悟さん、勝山匡さんには、委員会の活動にご尽力いただき、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。